
クローン

ガイハン・ボシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クローン

【NZコード】

N5707D

【作者名】

ガイハン・ボシ

【あらすじ】

天才科学者が生み出した『自分』と一人の男との三角関係のお話。

(前書き)

もしも人のクローンが作られたら。 そう思って書きました。
楽しんで頂ければ幸いです。

私の恋愛状況は異常なほど複雑である。わかっていることといえ
ば、この私が失恋しているということくらいか。しかし私は今、実
に幸せそうな顔をしている。私は幸せであり、私は不幸である。た
ぶん、私がこの世からいなくなれば、この状況が少しは解決するの
だろう。

何がこのような事態を引き起こしたのかといふと、やはり私が彼
に対抗心を燃やして自分の気持ちに気づくのが遅かったことが原因
だろう。

私の所属する研究所は、誰も知らないような森の奥深くにあつた。
金持ちの道楽で建てられた研究所で、最高の施設・条件・人材が集
められ、研究・開発費は無限に与えられた。その最高の人材として
二十人ほどの研究者がを集められた。私はその内の一人である。

誘いを受けたときはなんとも胡散臭い話だと思ったが、入つてみ
るとなかなかに楽しい場所ではあつた。自分のやりたい実験を好き
放題にやらせてもらえるし、費用も気にせずに使いたい放題だ。そ
れまでは国が指定してきた研究を限られた費用でこなさなければな
らなかつたが、ここではすべてが自由だつた。私はそこでの研究で、
生物学の分野において数々の学者たちを唸らせてきた。

半年ほど遅れて、彼が入所してきた。彼の専門分野も生物学であ
つた。当時、その研究所には私以外の生物学者はいなかつたので、
私は仲間ができたと喜んだものだ。しかし、彼は私より優秀だつた。
彼の論文は斬新かつ精細で、私ですら感心してしまったほどだつた。
私の研究は彼のものにもう一歩及ばず、気がつけば私は彼に対抗心
を燃やしていた。

ある時、彼と研究テーマがかぶつたことがあつた。クローン技術

である。彼より優れた成果を出したかつた私は、ヒトのクローンを作ることにした。無論、そんなものを『外』には公表できない。個人の所有物で国からの制約や世間の目がない、この研究所でこそできる研究だろう。私はこのヒトを創り出すといつ、神に近い偉業を彼に見せ付けたかつただけだったので、それでも一向にかまわなかつた。当然、作るクローンは私自身のクローンである。他に被験者となるものはいないからである。

自分の細胞から取り出した遺伝子を元に、数ヶ月ほどの時間をかけて私は私自身を作り出すことに成功した。『私』は私にそつくりであつた。外見だけの話ではない。私は『私』に、自分の脳の無意識レベルまでの経験・記憶すべてを刷り込んだのである。つまり、『私』は完璧に私と同じであり、違いなどかけらもないのである。双子だってわずかな経験の差で何らかの違いが出てくるが、私と『私はそんな違ひすらないのである。

私は、ヒトを作つた、という事実に歓喜した。彼にこの研究結果を見せたところ、彼も驚愕して私のことを称えていた。彼に認められたと私は喜んだ。

そのとき気づいた。なぜ彼に対抗心を燃やしていたのか。私は彼に、こっちを向いて欲しかつただけなのだ。常に上を向いている彼の視界の中に、私を入れたかつただけだつたのだ。

そう気づいた瞬間、私は彼に想いを告げていた。彼はさらに驚きつつも、快く答えてくれた。

これが私の、今の恋愛状況である。私は彼と付き合つていて、そして私は、想いも告げられぬまま失恋している。

果たしてあの時、彼に告白したのは私と『私』のどちらだったのか。この私はクローンなのか、オリジナルなのか。この世からいなくなるべき私はどちらなのか。

私は・・・死ぬべきなのか、殺すべきなのか。

前者は私に彼を譲り、後者は私から彼を奪うことになる。私は私を優先すべきなのか、それとも私を優先すべきなのか。

私は決断した。誰にも気づかれぬように、私は私をこの世から消そう・・・と。

(後書き)

結局『彼女』はどちらなのか？『彼女』の出した決断は？それはあなたのご想像にお任せします。
読んでください、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5707d/>

クローン

2010年10月9日13時33分発行